

甘柿の王様

富有柿情熱のたまもの

福嶋才治、瑞穂の木から見いだす

探訪 ぎふトリビア

「甘柿の王様」と言われる富有柿。日本の甘柿生産量の最も多くを占める品種で、甘みが強い上、果肉は柔らかく果汁が多い。そんな柿をこの世にもたらしたのは幕末に現在の瑞穂市に生を受けた一人の青年だった。良質な柿を求めて柿作りに情熱を注ぎ、天下に広がるよう願いを込めて「富有」と名付けた。命名から120年余りが経過し、その名は国内外に知れ渡っている。

(織部俊太郎)

旧大野郡居倉村(現在の瑞穂市居倉)には、ひととき甘く、柔らかい実を付ける評判

の柿の木があった。この御所柿の木に目を付けたのが、富有柿の名付け親・福嶋才治(1865〜1919)だった。骨董商を営む家庭に生まれ、一時は医師の道を志すも健康を害して断念。興味は柿栽培へと移っていった。

福嶋は20歳の頃にこの木の枝を譲り受けて接ぎ木を試みたという。その後十数年間にわたって優れた個体を選抜し、品評会などで高い評価を得るようになった。「福嶋さんには良い物を見極める目があった。医学の研修で得た知

富有柿発祥の地に残る母木
＝瑞穂市居倉



福嶋才治(富有柿発祥の地 瑞穂市) 福嶋才治さん(とく)より引用

十数年かけ、優れた個体を選抜



富有柿の出荷作業が進む産地
＝本巣市上保、加藤柿園

識があったからこそ優れた柿を見いだすことができた」。

福嶋の功績を知り「富有柿発祥の地 瑞穂市く福嶋才治さん(とく)」という本を中心になってまとめた元柿農家の林嘉道さん(86)＝瑞穂市十八条＝はこう説明する。

この本によると、富有と名付けたのは、1898年のこと。中国の古典「礼記」にある「富有四海」という一節からとった。素質が優れたものは自然に広まるよう天の助けがあるという意味だといひ、その名の通り、富有柿は名声を高め、天皇に献上されるまでとなった。明治末期には全国に知られ、福嶋のところに苗木の注文が相次いだ。

福嶋が見いだした富有柿の原木は枯死したが、根元から芽吹いたとされる母木が今も瑞穂市居倉に立つ。その脇には「富有柿発祥の地」と刻ま

れた石碑があり、その功績を伝える。林さんは「福嶋さんがいなかったら今の富有柿はない。そして富有柿のおかげで、この土地の数え切れない人たちの暮らしが成り立った」と敬意を込める。

その富有柿も収量が毎年一定とは限らない。全国農業協同組合連合会県本部(JA全農岐阜)によると、今年の出荷量は当初、例年並みの2千トンを見込んでいたが、カメムシによる被害や高温の影響で、1600トに下方修正した。出荷量が5割に達するピーク日も後ろにずれ込み、予測では12月4日としている。県本部園芸販売課の野原浩平調査役は「ようやく店頭に出そろって来るはず。糖度は高くて味は申し分ないので、楽しみに待っていてほしい」と呼びかける。

柿を育てて60年の「柿の匠」である加藤泰一さん(80)＝本巣市上保＝は「こんなに遅くなるのは何十年ぶりのこと。気温が下がらず、色がなかなか出なかった」と話す一方、「農業は自然とともにあるのだから、いい時も悪い時もあふること泰然自若に受け止める。」「さまざまな課題はあるが、発祥の地の柿がやはり日本一と言われるようでありたい」と力を込める。